



松木島八幡社

せんくう かぜ
遷宮の風だより 特集号

発行元

松木島八幡社第19回式年遷宮委員会

令和5年6月1日

今回の遷宮の風だよりは、松木島出身で日本を代表する実業家“^{かみやでんべえ}神谷傳兵衛さん”と松木島八幡社のつながりを紹介します。なお、この遷宮の風だよりでは親しみを込めて登場人物を「さん」とさせていただきます。

でんべえ 傳兵衛さんってどんな人？

傳兵衛さんといえば、鉄道の三河線と地元“松木島駅”を作ったことで有名です。当時は松木島駅というより傳兵衛さんの功績を称え“^{かみやえき}神谷駅”と呼ばれていました。

傳兵衛さんは、安政3年2月11日(1856年3月17日)に松木島村(現在の西尾市一色町松木島)で生まれました。17歳で上京し多くの事業を成功させています。まず、東京浅草に“神谷バー”を開店させ、ワインを日本に広めました。神谷バーは現在も浅草の同じ場所で多くの人に“安らぎ”を提供しています。続いて茨城県の牛久市で、日本で最初に本格的なワイン醸造所を作りました。この牛久市には、傳兵衛さんの記念館と牛久シャトーがあり、令和2年に日本遺産として認定されています。こんな傳兵衛さんは、地元松木島八幡社に多くの^{きそろう}寄贈をしています。



松木島駅
昭和40年代前半まで駅員さんが切符を販売していました

じょうやとう 寄贈 常夜灯



昼間の常夜灯(左側:西)

八幡社正面の左右に石段造りの常夜灯があります。傳兵衛さんと兄の慶助さんが寄贈したという記録が彫り込まれています。

左右の常夜灯は、共に正面向かって右側に「神谷傳兵衛」住所は「東京浅草花川戸町」の文字が読み取れます。反対側には「神谷慶助」の名が彫られています。

裏面は「明治二十年八月」と記されています。

この常夜灯は、現在でも地元松木島の皆さんによって、毎晩持ち回りでろうソクの明かりが^{とも}燈されています。これからも傳兵衛さんの残した常夜灯を皆さんで守っていききたいものですね。

また、傳兵衛さんは、“常夜灯”以外にも“総石垣”や大正11年には、2年後に控えた遷宮に備えて当時のお金で“五千円を”寄附しています。大正時代の五千円は、今の時代に換算すると千倍、二千倍、それ以上とも云われています。



明かりが灯された常夜灯(右側:東)



傳兵衛さんをもっと知りたい! 伝えたい!

一色東部小学校の6年生は、総合学習の時間で神谷傳兵衛さんの生涯とその功績について

て追究しました。子供たちは、調べていくうちに、自分たちと同じ一色町出身の「神谷傳兵衛」という偉人のすごさに驚きました。



「こんなすごい人が一色町にいたことは知らなかった」「もっと傳兵衛さんのことを多くの人に伝えていきたい」と考えた子供たちは、その功績をいろいろな人に伝えようと、学習発表会で劇を行うことにしました。台本の作成や演技の練習など、大変なことも多くありましたが、47人で力を合わせ、劇「神谷傳兵衛物語」を完成させることができました。

たくさんの人たちに劇を見てもらい、傳兵衛さんの偉大さを伝えることができました。中には、涙を流して見ている人の姿もあり、傳兵衛さんの活躍を再現した子供たちに大きな拍手が送られていました。

傳兵衛さんと親交のあった著名人

皆さんは、^{かつかいしゅう}勝海舟という人を知っていますよね。歴史の教科書に載る幕末の偉人ですね。傳兵衛さんと勝海舟さんは、東京の^{むこうじま}向島でご近所づきあいをされていたようです。また、幕末から明治にかけて活躍した政治家の^{いたがきたいすけ}板垣退助さんとも向島の家で親交があったようです。

松木島八幡社との関係では、^{ぶどうか}武道家で^{しどうか}書道家でもある^{やまおかてつ}山岡鉄舟(鉄太郎)さんは、傳兵衛さんの剣道の師匠でした。そんな鉄舟さんの“書体”が、今でも“大のぼり”に描かれています。のぼりの書は、傳兵衛さんの依頼を受けて鉄舟さんが書いたものと云われています。

また、拝殿の正面には、^{さいごうじゅうとく}西郷従徳さんが書いた“八幡宮”の額が飾られています。従徳さんは^{さいごうたかもり}西郷隆盛さんの甥にあたります。



“正四位山岡鉄太郎謹書”
と書かれている大のぼり



板垣退助 肖像画の100円札



今回の透かし

今回の“透かし”は神谷傳兵衛さんの写真です。

傳兵衛さんの偉業は、地元ではあまり知られていないようですが、刈谷市では市の発展に貢献したことで“傳兵衛クラブ刈谷”というファンクラブ的な組織が立ち上がっています。私たち地元の松木島でももっと多くの人に知ってもらいたいと思います。

参考資料：松木島四百年史、坂本箕山著“神谷傳兵衛”

